



松蔭 校長室だより

一校長から保護者の皆様へのメッセージですー

2023年 3月 22日 発行

松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井直光

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたくしのもとに来なさい。休ませてあげよう。 (マタイによる福音書 11:28)

1年間の振り返り 学校アンケートの結果

毎年3月に入ると校内では、通常の教育活動に加えて年度末の事務処理と新年度の準備が同時進行となり、先生方も大わらわの状態です。「この聖句を目にするとほっとするなあ。」校長室のデスク正面には、数年前の書道部員が書いてくれた冒頭の聖句が貼ってありますが、一息ついて漏らした私の独り言が聞こえたのでしょうか、ある先生から「お疲れですね」と労いの言葉をもらいました。生徒はどのような心境なのかと、廊下で「今年の学年が終わってどんな気持ち？」と尋ねてみました。「嬉しい」「ほっとする」の声のなかに、「もっと頑張ったらよかった」との反省の弁が混じります。今年度最後の授業を終えて、学年末考査の答案が返却され、残すは球技大会と終業式のみという日のことです。1年間の学業を終えて感じる安堵と反省、新年度への期待と不安など、いろいろな感情が湧きあがっていることでしょう。今年度も生徒対象「授業評価アンケート」、保護者対象「学校生活に関するアンケート」を実施しましたので、その結果に触れて学校の1年を振り返りたいと思います。

生徒対象 2022年度「授業評価アンケート」

全授業を対象に、12月にデジタル方式で実施しました。以下の10設問。回答は4段階(①とてもそう思う=4点 ②ややそう思う=3点 ③あまり思わない=2点 ④思わない=1点)とし、全生徒からの回答の学年ごとの平均点の集計結果が<表1>です。別に教科別、教員別の集計表がありますが、ここでは、学年別結果を掲載します。

- Q1. 先生の授業ではポイントが整理されている(板書・電子黒板・プリント・実技指導を含む)。
- Q2. 先生は自分たちが勉強し易いように、いろいろ工夫してくれている。
- Q3. 先生の授業での説明はわかりやすい。
- Q4. 先生が使うICT教材(教材・映像・画像・板書)は、わかりやすい。
- Q5. 私には、ICTデバイスを利用した学習が合っている。
- Q6. 先生は、生徒からの質問に対して、丁寧に応えてくれる。
- Q7. 先生は、授業に対する熱意が感じられる。
- Q8. 私は、分からないことがあると先生に質問したり相談したりしている。
- Q9. 私は、先生の授業に満足している。
- Q10. 私は、先生の授業を受け手、自分の学力(実技科目であればその技術)がついてきていると思う。

アンケート結果(<表1>)から、次の5点を指摘しておきたいと思います；。

- (1) 4点満点で、今年度の全設問平均点は、<表1>にあるとおり3.37ポイントでした。中間値は2.5で、3以上がおおむね肯定的評価になると見えています。また、過年度と比較すると、昨年度(2021年度)=3.33、一昨年(2020年度)=3.30ポイント。毎年、少しずつですが上昇していますので、評価できる結果であろうと思います。

<表1>授業評価アンケート結果

学年	調査数	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	全設問平均
		先生の授業ではポイントが整理されている…	先生は、自分たちが勉強しやすいよう、い…	先生の授業での説明はわかりやすい。	先生が使うICT教材（教材・映像・画像…	私には、ICTデバイスを利用した学習が…	先生は、生徒からの質問に対して、丁寧に…	先生は、授業に対する熱意が感じられる。	私は、わからないことがあると先生に質問…	私は、先生の授業に満足している。	私は、先生の授業を受けて、自分の学力（…	
全体平均	6,365	3.47	3.44	3.37	3.38	3.29	3.51	3.53	3.07	3.40	3.25	3.37
中1年	538	3.58	3.59	3.55	3.56	3.48	3.57	3.65	3.19	3.54	3.42	3.51
中2年	790	3.49	3.46	3.39	3.41	3.22	3.47	3.52	2.87	3.38	3.20	3.34
中3年	1,169	3.50	3.47	3.37	3.42	3.40	3.52	3.55	3.07	3.41	3.25	3.40
高1年	1,735	3.42	3.39	3.32	3.32	3.19	3.44	3.44	3.09	3.33	3.19	3.31
高2年	790	3.42	3.40	3.32	3.27	3.18	3.55	3.52	3.06	3.33	3.10	3.32
高3年	1,343	3.49	3.43	3.40	3.39	3.35	3.54	3.59	3.12	3.47	3.35	3.41

(2) ポイントが高いことは、生徒の授業に対する満足度が高いこととなります。3.5ポイント超の結果となっている設問が、「Q6.先生は、授業に対する熱意が感じられる。」「Q7.先生は、生徒からの質問に対して、丁寧に答えてくれる。」の2問です。先生の「熱意」と「丁寧」さがキーワードです。関連して先月の校長室だよりに次のように記載しました。

「授業評価アンケートの10項目のうち、「先生は、授業に対する熱意が感じられる」「先生は、生徒からの質問に対して丁寧に答えてくれる」の2項目について、前者が全ての項目のなかで最も高いポイントとなっている教員は全体の38%、後者のそれは34%でした。合わせて72%の教員が、「熱意」と「丁寧」を生徒から高く評価されている結果となりました。「熱意」で高ポイントの先生が廊下で「丁寧」に生徒からの質問に対応している姿や、「丁寧」で高ポイントの先生が、授業で熱く語っている様子を見えています。教員個々でアンケート全体の平均ポイントに差がありますが、「熱意」をもって「丁寧」に生徒と向き合おうとする多くの教員の姿勢は、学校に漂う空気感に確かに作用をしていると思います。(校長室だより2月1日号)」

(2) 満足度が低い結果となった設問は、「Q8.私は、わからないことがあると先生に質問したり相談したりしている。」で、3.07ポイントでした。なかには、2ポイント台の学年がありました(<表1>の色表示欄)。教員には、学習意欲を喚起させる指導や声かけが求められますし、生徒が教員に質問に行きやすい「仕掛け」や「空気」の醸成を課題としたいと思います。職員室前の広い廊下にテーブルと椅子を置き、多くの生徒が先

生と顔を突き合わせて質問会をしています。たしかにポイントが低い学年の生徒の姿を見かけることが少ない気がします。

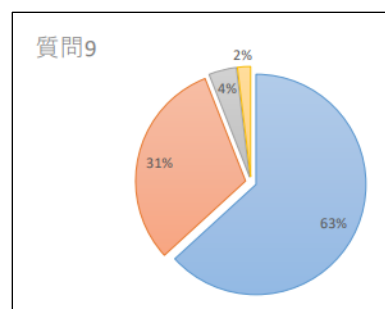
- (4) 教員別の結果（表はありません）によると、3.0ポイントを上回る授業は、前年度比6ポイント上昇の90%。最高ポイントは3.8ポイントでした。新学習指導要領と本校のSTREAM制導入で「探究系授業」が本格的に始まっており、高1の「言語探究」授業、中1～中3「GL探究」授業の平均ポイントは、3.67。満足度が高い結果となりました。次年度の課程では、探究系授業がさらに増えます。探究学習で習得するスキルは、大学進学の際のA0入試（総合型選抜）の入試方式の取り組みに展開させることが可能です。私立大学だけでなく、国公立大学もこの入試方式による入学生枠を拡大する傾向があるので、進路選択の際には、入試方式の一つとして対応できる態勢を作っておきたいと考えています。
- (5) 教員への結果のフィードバックは、クラスや授業ごとの詳細な個人データを担当者に返却しています。また、教科ごとに教員で結果を共有しました。特に2ポイント台の授業については改善をはかるようにしています。

保護者対象 2022年度「学校生活に関するアンケート」

保護者の皆様には、Classi アンケートではご協力いただきありがとうございました。10問の回答をお願いしましたが、ここでは、そのうちの4問の結果について触れたいと思います。

- (1) 「質問9. 子どもを松蔭に入学させて良かったと思う」

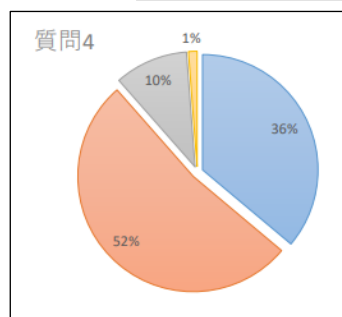
「とてもそう思う」「ややそう思う」という肯定的評価を94%の方からいただきました。一方で6%の方の否定的評価の要因を探り、改善を図ることも課題です。（右グラフ：質問9結果）



- (2) 「質問4 学校のホームページは、保護者が知りたい情報を十分に提供している」

2年前に学校HPを2年前にリニューアルし、SNSの発信も始めました。「とてもそう思う」の回答は、2020年度27%⇒2021年度29%⇒2022年度36%と上昇しました。一方、半数が「ややそう思う」に留まっています。HP担当の総務部では改善策について検討しています。

（右グラフ：質問4結果）

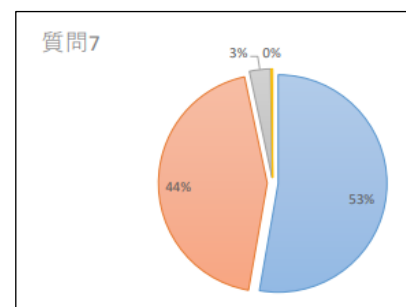
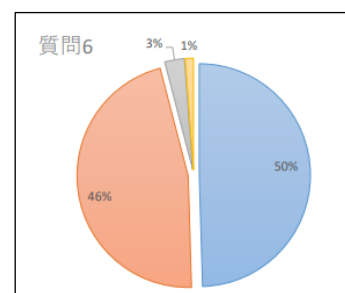


■ とてもそう思う
■ ややそう思う
■ あまり思わない
■ 思わない

- (3) 「質問6. 子どもは安全に通学できている」（右グラフ：質問6結果）

「質問7. 松蔭では警備体制や災害、緊急事態に対する対策を十分に講じている」（右下グラフ：質問7結果）

質問6、7ともに「とてもそう思う」が半数を超えています。また、前年度の結果と比較してみると、質問6は8ポイント、質問7は4ポイント上昇しました。一方で、上述のHPの件と同様ですが、半数近くの方が「ややそう思う」に留まっています。様々な意味合いの「安全」や「対策」があると思いますが、さらにどのような内容の働きかけが出来るのかについて、今後探りたいと思います。



新年度に向けて 心のケアも

ウィズ/アフターコロナの社会が動き出しています。マスク着用のガイドラインなど、学校の今後の感染症対応については、別にClassiでお知らせします。生徒も学校も本格的に動き始める2023年度です。食堂の営業や国際交流プログラムも再開する準備をしています。

コロナ禍の3年間、世の中も学校も感染防止が第一で、「社会的距離（ソーシャルディスタンス）」の確保が最優先でした。学校でも宿泊行事やプログラム中止、縮小が相次ぎ、学級、学年のなかでの人との接点や、新たな交流や「出会いなおし」の機会が、マスク姿とともにコロナ以前とうって変わった状況がその舞台でした。生徒の様子を見ていると、人との「心理的」距離を適切に保つことや、トラブルとなっても修復に向かおうとする「人間関係構築」の力が弱くなったのではないかと感じる場面が少なくありません。その弱い「力」のまま、今後はコロナ前同様の人となりの交わりが再開されていくのですから、教員には、集団のなかの個々のあり方、互いの関係性を調整しながら、全体の「ハレーション」とならないよう留意することが求められます。ご家族の皆様とも十分なコミュニケーションをとりながら、乗り越えたいと思います。